



国際病理アカデミー

日本支部

A NEWS BULLETIN 2009 Number2

Published quarterly
by the Japanese Division
of the International
Academy of Pathology

OFFICERS

PRESIDENT

H.Hashimoto, M.D.(09)

*University of Occupational and
Environmental Health*

PAST PRESIDENT

T.Moroboshi, M.D.(09)

Showa University

PRESIDENT-ELECT

O.Matsubara, M.D.(09)

National Defense Medical College

SECRETARY-TREASURER

N.Nemoto, M.D.(09)

Nihon University

COUNCILLORS

T.Yoshino, M.D.(09)

Okayama University

T.Shiraishi, M.D.(09)

Mie University

T.Sano, M.D.(10)

Tokushima University

H.Sasano, M.D.(10)

Tohoku University

M.Kuroda, M.D.(11)

Fujita Health University

Y.Nakatani, M.D.(11)

Chiba University

COMMITTEE CHAIR

Education, Chair

Z.Naito, M.D.(09)

Nippon Medical School

Finance

H.Iwaki, M.D.(08)

Fukuoka University

Nomination

T.Moroboshi, M.D.(09)

Showa University

Course Director,SPU

R.Y.Osamura, M.D.(09)

Tokai University

ボストンUSCAPに出席して

IAP Vice President

東海大学医学部病理診断学 長村義之

ボストンUSCAPは、さる3月7日より13日まで開催された。今年のボストンは、案じていたよりはるかに温かく雪の日が一日もなかった。その天候の良さもプラスに作用したと思われるが、参加者は過去最高の4100名だったそうである。

3月8日の午前中には、IAP Executive meetingが行われ幾つかの議論がなされた。

先ず、昨年アテネで開催されたXXXVII IAP国際会議には、90カ国から2400名の参加があったと、George Kongogorgos会長から報告があった。ギリシャ400名、米国190名、日本130名、カナダ103名、オーストラリア70名が上位5カ国であった。日本から参加された先生方御苦労さまでした。学会とアテネ滞在を楽しまれたことと思います。

IAP本部に登録されている日本支部の会員数は、2009年で573名で微減です。大いに会員としてのメリットを宣伝し、もっと増えてほしいと率直に感じました。財務報告として、驚いた(むしろ予期すべき)ことは、世界的な経済恐慌を受けてIAPが投資している株価が最高10分の1まで下落してしまったことです。幸いJack Strong財務委員長のご努力と先見の明で、全体の財務状況は難を逃れました。また、Florabel Mullick会長からのご提案で今後のIAPの活動の活性化を目指してPresident's Task Force on The Way Aheadが結成され、少人数の会議体ですが、私もメンバーに入りました。近くTeleconferenceが行われる予定です。来年は2010年は、Marcello Franco会長のもとブラジルのサンパウロ市でIAP国際会議が開催されます。XXVIIIth Congress of the IAP in São Paulo, Brazil, from October 10 to 15, 2010 <http://www.iap2010.com/index.asp>

また、今年も、以下の会議がアジアで開催されます。奮ってご参加ください。

①6月5日-7日まで中国Shantou市において②第4回Asia Pacific Society of Molecular Immunohistology(APSMI) "<http://meeting.med.stu.edu.cn/>" <http://meeting.med.stu.edu.cn/> が、8月20日より23日までインドのKochi市において第6回Asia Pacific IAP Congressが開催されます。"<http://www.apiap2009.com/php/showContent.php?linkid=21&partid=0>" <http://www.apiap2009.com/php/showContent.php?linkid=21&partid=0>



3月10日 "Japan Night" IAP日本支部レセプション 45名が参加された

USCAPは3月7日のCompanion meetingに始まり、ポスター、講演、そしてSpecialty conferenceなど、相変わらずの熱気でありました。私の友人の多くは、熟年期にさしかかってきてはいますが、皆元気な病理医であり、非常にactiveです。一方では、しばらく前には、若手として紹介された人たちが、熟達した病理医に誘われて（あるいは担ぎ出して）Short courseのDirectorになってきており、良い方向への時の移り変わりを感じさせました。また、residentクラスの若手も増えてきており、目を輝かせていたのも印象的です。この熱気を持った層の厚い人的構成メンバーが少しずつactiveに世代交代してきているのを感じ取れます。我が国にも参考になることが、あるのではないかといつも思っています。USCAPのBusiness meetingでは、若手の表彰とともに、長年USCAPの面倒を見ている“ママ”的な存在で親しまれているMs. Jo Ann JohnsonがIAP Gold Medal Awardを受賞し皆から祝福されました（USCAPのホームページ"Virtual Meeting" (New)"をご覧ください。今年この凄い熱気のUSCAPには、日本からも多く出席されており、米国で活躍されている病理医の方々と同様、Japan nightを橋本洋日本支部会長が召集され、10日の夕刻にSheratonHotelの一室を使用して開催しましたが45名のご参加があり、大いに意見交換をして盛り上がりました [写真]。来年は、Washington DCで2010 Annual Meeting Marriott Wardman Park March 20-26, 2010 Washington, DCの要領で開催される予定です。皆様WashingtonDCのUSCAPでもお目にかかるのを楽しみにしています。

USCAPのホームページ

HYPERLINK "<http://www.uscap.org>" www.uscap.org をご覧ください。

資料: Dr. Fred SilvaのポスターUSCAPのまとめ

REPORT OF THE 98th ANNUAL MEETING OF THE UNITED STATES AND CANADIAN ACADEMY OF PATHOLOGY -March 7-13, 2009-Boston, Massachusetts
The 98th annual meeting of the USCAP was held in Boston, Massachusetts and was by all accounts a resounding success. 4262 total physician-pathologists were in attendance (this number include 147 Companion Only Registrants). Welcome Home.

The General Registration of the meeting was the highest in the history of USCAP attendance- over 4100 (two year's ago in San Diego being the highest until now-3550). These attendance figures continue to make the annual meeting of the Academy the largest gathering, by far, of physician-pathologists in the world. Indeed, for the past eight years we have regularly had 3000-3200 physician-pathologists or more in attendance. 928 of the registrants/attendees at the Boston meeting were from international countries outside of the US and Canada. The countries (and the number of international visitors from each country) included: United Kingdom (83), Spain (73), Italy (72), Japan (67), Brazil (55), Ireland (55), France (53), Germany (38), Australia (34), Mexico (34), Argentina (31), S. Korea (30), Turkey (27), Netherlands (26), Switzerland (24), Taiwan (22), Greece (20), Belgium (16), Chile (16), Israel (14), Portugal (11), and all the other countries 1-10 friends. Thus, in toto, 928 international visitors from fifty-nine countries outside of the USA and Canada were in attendance (22 % of our

total registrants). Pathologists from all 50 states of the US and 8 Canadian provinces were in attendance.

Of the registrants, 2203 were Regular, Sustaining or Emeritus members and 1002 were Junior Members . There were 593 pathologists in practice who were not members and residents/fellows who were not members (yet). Thus including the Residents and other students, there were a total of 1220 residents/fellows at our meeting. Each of the last several years we have had a thousand plus residents/fellows/students attend our Annual meetings. The percentage of house staff attending the meeting who are members of the Academy are for the past eight years - 41% , 69%, 67%, 66%, 76%, 84%, 88%, 83%, respectively. This probably relates to the effective recruitment we have had of pathology house staff/fellows/pathologists-in-training in the last 9 years. In July 1999 we had 520 Junior Members; in the following ten years we recruited over 6000 additional Junior Members (many of which have now become Regular Members). Our present "steady state" of Junior Members is over 2000. Our total USCAP Membership is over 10,600 physician-pathologists.

平成21年度IAP日本支部第1回理事会議題

2009年度第1回IAP日本支部理事会

日 時: 2月3日(火) 15:30-17:30

場 所: 東京ジョンブル

バンケットルーム ロベリア b 電話03-3242-3451

議題について

報告事項:

1. 平成21年度理事・役員・各種委員会の確認
2. 平成20年度IAP日本支部教育セミナーについて
教育シンポジウムおよびスライドセミナー
3. IAP日本支部病理診断学術奨励賞
4. その他

審議事項:

1. 2009年のIAP日本支部の行事予定
2. USCAP2009 March 3月7-13日、Boston
3. SPU 2009 湘南国際村 2009年5月29日~31日
4. 第5回APSMI 2009年6月5日~7日、中国
5. 第11回日韓合同スライドカンファランス
(2009年11月13日、14日 名古屋)
6. IAP日本支部教育セミナー
(会費値上げの件ならびに保管状況)
2009年11月19日(東京)
7. 教育シンポジウムのテーマならびにモデレーター、スライドセミナーの新規テーマ
(2コース)
8. 会員について(退会者多数の件)
9. Award Committeeから
10. その他
11. 次回の理事会(平成21年度第2回)
総会第2日目5月1日(金)のお昼。京都

2009年IAP日本支部・病理診断学術奨励賞の公募

IAP日本支部では2009年の「IAP日本支部・病理診断学術奨励賞」を下記の要領で公募します。

記

賞の名称:IAP日本支部・病理診断学術奨励賞

応募資格:日本の医療機関に勤務する若手(論文掲載時40歳未満)の病理医(IAP日本支部の会員か否かは問わない)

選考対象:2008年1月から12月の間に雑誌に公表された診断病理分野における優れた英文論文(1編)。但し、留学先での仕事ではなく日本での仕事のみ。筆頭著者を原則とする。

受賞者数:3名以内

賞の内容:賞状と副賞

応募方法

推薦、自薦ともに可とするが、推薦を原則とする(しかし、推薦者がいない場合も受付ける)。

申請時に必要なもの:

応募者の履歴書

推薦書(推薦人がある場合)ないし、応募理由書(推薦人がない場合)

推薦書および応募理由書ともA4用紙2枚以内(書式は問わない)

論文の別刷7部(1部はオリジナル、他はコピー可)

応募の締切:2009年8月31日(当日の消印有効)

宛先:〒173-8610 板橋区大谷口上町30-1 日本大学医学部病態病理学系病理学分野 IAP日本支部事務局内「IAP日本支部・病理診断学術奨励賞」選考委員会宛

選考方法・発表

IAP日本支部が指名する「IAP日本支部・病理診断学術奨励賞」選考委員会(日本病理学会、日本臨床細胞学会からの外部委員も参加)において選考する。なお、受賞者は秋のIAP日本支部年次総会における表彰式に参加する。また、受賞者をIAP日本支部のNews Bulletin紙上に加え、日本病理学会、日本臨床細胞学会の機関誌に公表する。

10周年記念

Surgical Pathology Update 2009近づく

参加者募集(まだ間に合います)

IAP日本支部では国際的基準(Global standard)に基づく病理診断医(Surgical Pathologists)の育成と米国を中心とした外国の著名な病理医との交流をめざすことを目的に、全国から希望者50名を募り2泊3日の合宿(湘南国際村センター、神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39)により、米国から招聘した専門分野の講師および日本側のFacultyと共に講義実習を行うSPUを2000年から行っています。今年でSPU2009は10回目という記念の年になります。

今年の日程は5月29日(金)から31日(日)で、Course DirectorはMaryland大学のSteven G. Silverberg教授と東海大学の長村義之教授が務めます。テーマは、「神経腫瘍と子宮の外科病理」で、FacultyはSilverberg教授、Mayo ClinicのBernd W. Scheithauer教授、三上芳喜先生(京都大学)と廣瀬隆則先生(埼玉医大)を講師として予定しています。2泊3日の合宿により、スライド鏡検を中心とした

実習と解説を行い、関連分野の最近のトピックスの講演も行う予定です。予定のプログラムを下に示します。なお、社団法人日本病理学会の後援を受けており、病理専門医資格更新の際10単位が得られます。

参加費はIAP会員が45,000円、非会員が55,000円で、宿泊費、会場費、食事代、事前の病理ガラスライド配付、当日のハンドアウトなどを含みます。受付は去年同様に先着順です。今年は珍しくまだ定員に満ちていませんので、どうか奮って応募してください。

参加希望者は、氏名、年齢、性別、所属、連絡先(住所、電話、FAX、e-mail)、IAP日本支部会員か非会員、日本病理学会会員か非会員を明記の上、e-mail(またはファックス)で申し込んで下さい。なるべくe-mailでお願いしたいと思います。連絡はFAX:04-2996-5193、e-mail:matubara@ndmc.ac.jpです。

IAP日本支部SPU事務局:松原 修(防衛医大病態病理)

THE 10th ANNIVASARY OF SURGICAL PATHOLOGY UPDATE 2009 (tentative)

Day 1 (Friday, May 29)

- 11:00- Registration
- 13:00 Opening and Welcome
(Robert Y. Osamura, M.D.)
- 13:30-14:30 Type II Endometrial carcinomas
(Steven G. Silverberg, M.D.)
- 14:30-15:00 Coffee
- 15:00-17:00 WHO 2007 classification of tumors
of the CNS: Development of the
WHO classification, new lesions and
controversies
(Bernd Scheithauer, M.D.)
- 18:30- Dinner and Reception

Day 2 (Saturday, May 30)

- 09:00-10:00 Peripheral nerve sheath tumors
(Takanori Hirose, M.D.)
- 10:00-10:30 Coffee
- 10:30-12:00 Slide Seminar
(GYN) (Steven G. Silverberg, M.D.)
- 12:00-13:30 Lunch
- 13:30-14:30 Sellar tumors (Bernd Scheithauer, M.D.)
- 14:30-15:30 Uterine smooth muscle and endometrial
Stromal tumors
(S.G. Silverberg, M.D.)
- 15:30-16:00 Coffee
- 16:00-17:00 Current concept and controversies on
endocervical adenocarcinoma
(Yoshiki Mikami, M.D.)
- 17:00-19:00 Consultation Cases with Faculty
- 19:00- Dinner

Day 3 (Sunday, May 31)

- 08:30-10:00 Slide Seminar
(CNS)(Bernd Scheithauer, M.D.)
- 10:00-10:30 Coffee
- 10:30-11:30 Mixed tumors of the endometrium
(S.G. Silverberg, M.D.)
- 11:30-12:00 Summary of SPU
(S.G. Silverberg, M.D. and Robert
Y. Osamura, M.D.)
- 12:00-13:00 Lunch (option)

2009年病理学教育セミナーのお知らせ IAP日本支部主催 日本病理学会後援

日 時:平成21年11月21日(土) 9:00-17:30
場 所:国立オリンピック記念青少年総合センター
(東京・代々木)

教育シンポジウム 9:00～11:45

今回の教育シンポジウムは、昨年の教育セミナーのアンケート等でご要望が多かった「肺癌新WHO分類」について、日常の病理診断業務に役立つ内容を野口雅之先生、石川雄一先生に企画していただきました。

主 題:肺癌新WHO分類に向けて

モデレーター:野口 雅之 先生(筑波大学)

石川 雄一 先生(癌研有明病院 病理部)

演 者:未 定

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
◎当日はご自由にご参加下さい(会場費3,000円、ハンドアウト代含む)。その時に病理専門医の更新に必要な参加証をご用意いたします。5単位が得られます。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

スライドセミナー(敬称略)

1時限目 13:15～15:15

*A-1 仮)唾液腺腫瘍

長尾 俊孝(東京医科大学病院病理診断部)

B-1 肺の外科病理update

中谷 行雄(千葉大学大学院医学研究院診断病理学講座)

松原 修(防衛医科大学校病態病理学講座)

C-1 臍腫瘍性病変の病理

諸星 利男(昭和大学医学部第一病理学教室)

D-1 悪性リンパ腫関連疾患

吉野 正(岡山大学大学院病理・病態学講座)

2時限目 15:30～17:30

*A-2 仮)神経系腫瘍(中枢系ないし末梢神経)

広瀬 隆則(徳島県立中央病院病理診断科)

B-2 骨髄の病理(MDSなど)

大島 孝一(久留米大学医学部病理学講座)

C-2 子宮内膜症とその関連腫瘍

本山 悌一(山形大学医学部人体病理病態学教室)

D-2 甲状腺腫瘍、新WHO分類を中心として

加藤 良平(山梨大学大学院人体病理学講座)

*印は新規のものです。事前資料としてバーチャルスライド(DVD-R)を送付予定です。なお、D-1、D-2コースはWindows(XP以降のOS)のみに対応致します。その他のコースは、Windows、Macともに使用可能です。病理専門医の資格更新単位として10単位が得られます。受講料:1コースIAP日本支部会員7,000円、非会員10,000円です。

今回の開催地は東京都代々木で、日本病理学会秋期大会の会場(九段)とは別の施設で開催する予定です。会場は新宿、原宿に近く、小田急線参宮橋駅から徒歩7分、地下鉄千代田線代々木公園駅から徒歩10分で、代々木公園に隣接しています。

第11回日-韓合同スライドカンファレンスのご案内

第11回日韓合同スライドカンファレンスのお世話を拝命し、大変光栄に存じ上げます。

さて、2008年会報第4号でお知らせしました内容が大幅に変更になりましたので、改めてお知らせをさせていただきます。

韓国病理学会、IAP首脳の交代があり、韓国側の意向により、開催日が11月13日(金) 14日(土)に変更になりました。11月13日(金)は日韓IAP合同スライドカンファレンスを名古屋ガーデンパレスで開催いたします。当日午前のソウル発の便でおこしになる方々に合わせて午後2時頃から開始する予定です。カンファレンス終了後に日韓IAP20年の歴史について牛込新一郎先生に特別講演をお願いしてあります。その後ウェルカムバンケットを同一会場にて開催いたします。バンケット参加費は登録費(日本の方10,000円)に含まれておりますので多数の参加をお待ちしております。その後は名古屋の夜をご堪能下さい。翌11月14日(土)は名古屋の結婚式シーズンのため名古屋ガーデンパレスは使用できませんので、名古屋大学の中村栄男先生のご高配をいただき、名古屋大学医学部の講義室で骨軟部腫瘍、肺病理、腎病理のジョイントミーティングを開催いたします。各々の日本側の世話人は骨軟部腫瘍が聖マリアンナ医大の高木正之教授、肺病理が名古屋大学の横井豊治教授、腎病理が慈恵医大柏病院の山口 裕教授です。午前9時から正午までを予定しております。名古屋ガーデンパレスからタクシーで約10分ですので、日本支部の会員の方々の韓国からの参加者へのエスコートを何卒宜しくお願い申し上げます。その後エクスカッションとしてのハーフデイツアーに出発いたします。今のところ徳川美術館、トヨタ自動車博物館等を考えておりますが、ご希望がありましたら是非お知らせ下さい。当日のソウルへ向かう最終便に間に合うように計画する予定です。なおジョイントミーティングの参加費も登録費に含まれています。

この日はジョイントミーティングで公式のスケジュールは終了させていただきますので、3つの会で更なる日韓の懇親を深めたい場合には各々で企画していただきます。多くの会員の皆様の来名を心よりお待ちしております。

(黒田 誠 記)

あ と が き :

News Bulletin 2009 No.2をお届けします。本号では、すでに終了したイベントの報告に加え、夏に湘南国際村で開催のSPU2009、また今秋、名古屋で開催される第11回日韓スライドカンファレンス、ならびにIAP教育セミナーのご案内を掲載しました。なお、本部のBulletinを同封しました。皆様のご参加をお待ちしています。

173-8610 東京都板橋区大谷口上町30-1

日本大学医学部病態病理学系病理学分野

根本則道/家守玉美

Tel:03-3972-8111 内線2256/Fax:03-3972-8163

E-mail:iapj@med.nihon-u.ac.jp